

今月の

逸品

NO. 62 2022. 12~2023. 1



MUSEUM OF EDUCATION



「日露戦争三十年植樹記念碑」

昭和6年(1931)の満洲事変以降、日本では次第に教育への統制が強まっていきました。こうした情勢下、昭和7年4月に京都府師範学校校長に就任したのが、三国谷三四郎でした。

三国谷は明治12年(1879)、青森県に生まれ、青森県師範学校、東京高等師範学校で学んだ後、30歳代には主に朝鮮半島(現在のソウル・平壤など)で教鞭を執り、42歳で京都帝国大学文学部に入学。卒業後は、奈良師範学校校長などを経て、54歳で京都府師範学校校長となりました。

「記念碑」
 日露大戦役ヲ去ル正三三十年。今茲、陸軍記念日ヲ期シ、其ノ祝典各地ニ行ハル。吾等亦往時ノ戦勝ヲ憶ヒ、護国ノ英靈ヲ慕ヒテ歌トス。茲ニ職員生徒胥謀リ、桜樹百五十株ヲ校庭ニ植エ、聊カ以テ記念トス。
 昭和十年三月十日
 京都府師範学校

昭和10年3月19日、三国谷は、日露戦争後三十年の記念樹として、京都府師範学校の職員・生徒からの拠金37円80銭(日露戦争が明治37・38年であることにちなむ)で購入した吉野桜と山桜の苗木150本を師範学校の校庭や運動場、寄宿舍の周囲などに植樹しました。同年には、京都府を含む各地で、主に陸海軍の主導で各種のメディアを駆使した日露戦争「戦勝」30周年のキャンペーンが大々的に展開されており、三国谷の事業もその一つといえるでしょう。桜が選ばれたのは、桜が「日本魂」の象徴だからとのことで、植樹された桜が師範学校の生徒とともに成長し、当時の生徒が「国家の中堅」となる頃にこの苗木が「堂々たる大木」になっていることが祈念されました。本碑は、植樹に先だつ3月10日の陸軍記念日に、師範学校の敷地内(現、京都教育大学附属京都小中学校)に建てられたものです。

本碑の存在は長らく忘れられていたのですが、2021年4月、附属京都小中学校の校舎増築工事に伴う外構工事の際、玄関脇から「発見」されました。その後、本碑は本学教育資料館に寄贈され、2022年10月より同館内にて展示されることになりました。

参考文献：『京都教育大学百二十年史』(2001年) pp.281-285

「師道の標的として師範校庭に「桜」を栽ゆ」『京都教育』604号(1935年4月1日)

執筆者：中村 翼(社会科学科 准教授/教育資料館 次長)

※教育資料館で展示しています。